

# 租税教育実践レポート

## わたしたちのくらしと税金


登米市立米谷小学校教諭 6学年 川村 愛

実施年月日：令和2年9月17日 19名

### 1 実践計画・指導のねらい

実生活において消費税などの身近な税金があることを児童たちは知っているが、それ以外の税金の種類や税金の使い道について知っている児童は少ない。そこで本実践では、社会科「震災復興の願いを実現する政治」の授業、税務署よりゲストティーチャーを招いての「租税教室」、税に関する標語を考える活動を通して、政治と税金の関係や税金が自分たちの生活を支えていることを知り、税金の大切さについて理解させる。

### 2 単元構成・実際の指導状況（単元を通した全体の主な学習計画及び教師の指導）

時間	学習内容	主な発問 (○), こどもたちの反応 (●), 使用教材等 (□)
1	・東日本大震災後の復旧の様子を知り、人々の生活を守る町づくりについての学習課題を作る。	○ 震災直後から少しずつ変わっていく気仙沼の町の様子を見て、どのようなことを考えましたか。 ● がれきがなくなって少しずつ建物や道路ができてきている。 ● かつおの水揚げも再開されて、産業も復興してきている。 □ANNnewsCH動画
2 3 4	・震災直後の市や県、国の取り組みについて知り、町づくりに税が使われていることを調べる。	○ 震災直後の市や県、国の取り組みについて調べましょう。 ● 災害対策本部が設置された。 ● 仮設住宅の建設、ライフラインの復旧などを進めた。 ● 第一次補正予算を成立した。 ○ 復旧に向けた取り組みをするためのお金はどこから出ているのでしょうか。 ● 税金
5	・税金と自分の生活との関わりについて考える。 (税務署よりゲストティーチャーを招いての「租税教室」)	○ 税金が使われている施設はどこでしょう。 ● 学校、公園、公民館、消防署、警察署、信号… ○ 税金がないと私たちの暮らしはどうになってしまうのでしょうか。 ● お金を払わないと学校で学べなくなる。 ● 火事になっても消防車を呼べない。 ● 税金は自分たちの暮らしや社会を支えている。 □使用教材名 税のビデオ (マリンとヤマトの不思議な日曜日) 
6 7	・市民の多様な意見をもとに公園作りについて考える。 ・学習を生かして、税に関する標語を考える。	○ いろいろな意見からどんな公園にするとよいか考えましょう。 ● 子どもからお年寄りまで使えるバリアフリーの公園。 ● 避難所としても使えるようにした方がいい。 ○ これまでの学習を生かして税の標語を考えましょう。

#### 【指導のポイント】<1時間目>

気仙沼市の町の変化の様子を定点カメラで撮影した動画を視聴させることで、道路や建物ができ、少しずつ復興していく様子を捉えさせた。

#### 【指導のポイント】<2～4時間目>

復旧に向けて、市や県、国は様々な取り組みをしており、多くのお金が掛かることに目を向けさせた。そのお金はどこから出ているか考えさせることで税金へと結び付けた。

#### 【指導のポイント】<5時間目>

税務署よりゲストティーチャーを招き、税の基礎知識を教えていただいたり、DVDから税のない社会について考えたりすることで、税金の大切さに気付かせた。



#### 【指導のポイント】<6～7時間目>

公園作りについて考えることで、税が自分たちの生活を豊かにするために使われていることを意識させ、多様な意見を経て、使われ方が決められていると気付かせた。また、標語はコンクールに応募した。

### 3 実践の成果 (◎) と課題 (◆)

- ◎ 東日本大震災直後の気仙沼の町の変化から、どのように復旧・復興を進めたのか、どのようにその費用をまかなうのか課題意識を持つことができ、税金へと目を向けさせることができた。
- ◎ 租税教室で税金の種類や税金が使われている建物を知ったり、DVDの視聴や1億円のレプリカを持ったりすることで、税金について関心を高めた。
- ◎ 税金がなかった場合の社会を考えさせることで、税金の大切さについて気付かせることができた。
- ◆ 消費税以外の税は児童にとって、なかなか馴染みがなく理解しにくいようであった。地方税や国税など、前単元の「国の政治のしくみと選挙」の学習の際に、どのようなものかをより理解させることで、税についての理解が深まると感じた。